

## 施政方針(概要)

令和5年度において、本市が特に重点化して取り組むべき今日の問題として、本年1月末の寒波によって発生したノリ養殖被害への対応、新型コロナウイルス感染症の「5類」移行に伴うウィズ・コロナへの円滑な移行、各世代に応じた少子化対策の推進の3点が挙げられます。

さらに、新市民病院の開院、あらお海陽スマートタウンを含めた荒尾駅周辺地区の事業促進など、『暮らしたいまち 日本一』に向けて大きく踏み出す大事な1年であると位置づけております。

令和5年度の主要な施策については、「第6次荒尾市総合計画」に掲げる重点戦略「あらお未来プロジェクト」の5つの柱に沿って進めてまいります。

※詳細は次ページを参照。

令和5年度当初予算では、一般会計が244億円、特別会計が147億3,201万3千円、企業会計が201億1,249万1千円で、全会計の総計は592億4,450万4千円といたしました。これを前年度当初予算と比較しますと、一般会計は1.0%の減、特別会計は8.4%の減、企業会計は12.1%の増、総計で1.0%の増となっております。

令和5年度は、ノリの強風被害への対応、ウィズ・コロナへの円滑な移行、子育て支援や教育の充実などによる少子化対策の推進など、重点的に取り組むべき問題点への対応をはじめ、将来の荒尾市に向けて次のステージに上がる『市民安心・ワクワク予算』という思いを込めて編成いたしました。

先端技術を活用して、より便利で、快適に暮らせる『スマートシティ』の推進と『石炭のまちからゼロカーボンシティへの転換』をまちづくりの基本戦略として、荒尾らしい付加価値を高め、その果実によって教育、子育て、医療、福祉、防災など暮らしの足元を支えることで、幸せを実感し、選ばれるまちとなるよう、『暮らしたいまち 日本一』への挑戦を続けてまいります。